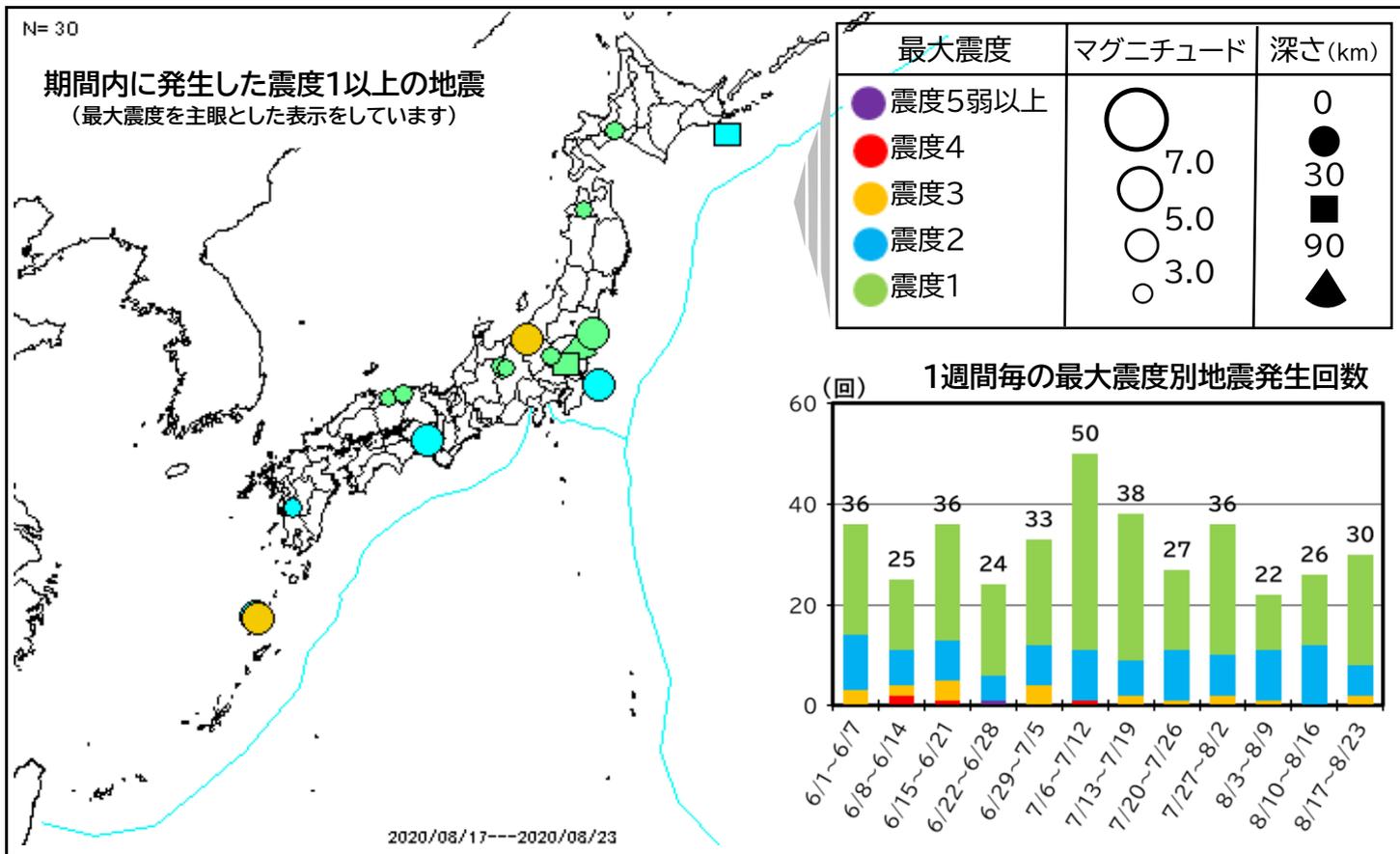


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が30回発生。最大震度は3。 ■
- ・19日09時17分に発生したトカラ列島近海の地震(M3.4、深さ17km)により、鹿児島県十島村小宝島で震度3、十島村悪石島で震度2、十島村宝島で震度1を観測。18日から22日にかけて震度1以上の地震が11回発生した。この付近は普段から活発な地震活動が見られる領域で、2016年12月には、最大震度4を観測する地震が2回発生している。
- ・22日02時32分に発生した長野県北部(M3.8、深さ10km)により、長野県栄村、新潟県十日町市、上越市、津南町で震度3を観測。この付近では、2011年3月12日にM6.7の地震(最大震度6弱)の地震が発生しているが、それ以前は、あまり地震活動がみられていなかった。

トピックス

- 陸羽地震 =前兆現象報道による風評被害と報道取り消し= ■
- ・明治三陸地震の2か月半後にあたる明治29年8月31日に秋田・岩手県境で「陸羽地震」とよばれているM7.2の地震が発生し、震源地付近では、死者209人、重軽症者779人、家屋損壊5000件以上となる大きな被害を伴った(位置関係を図に示した)。
- ・この地震で生じた、現代にも通じるいくつかの社会的な出来事を紹介します(信憑性に疑いがあるものも含む)。
- ・震源地近くの岩手県沢内村川舟地区住民の日記によると、この年の融雪期前より微震が時々あり、7月に入ると小地震が多くなった。本震である31日の地震発生時は、飛んでいる鳥も落ちた(それくらい大きな揺れだったとの誇張表現だろう)=盛岡地方気象台所蔵資料=。
- ・一連の前震活動のうち8月23日の地震(M5.5)は東北地方の広い範囲で揺れを感じたこと、以降、地元では大きな揺れを伴うようになったこと等から、地元新聞は、震源付近では山が鳴動しており地元住民は山崩れ等を危惧している、地元温泉の湧出が止まったため温泉客が引き揚げた等、一連の地震活動を伝え始めた=巖手公報=。
- ・この新聞報道に対して地元役場は、新聞記事のような事実は一切無く、報道により温泉営業に支障が出ている(現在で言う風評被害)ので報道記事を取り消すよう申し出があった。新聞社は、この申し出を受け入れて、役場からの取り消し要求書の全文を掲載した(現代では、このような対応は無いであろう?)。
- ・陸羽地震により出現した地震断層は、いまでも地形に残っており見ることが出来ます。

